

疲労困憊

2025.11.12

中学校の部活動を行っている。10月に大会があった。県北地区新人大会である。組合せを見た。今まではずっとわるかった。くじ運がないといえばそれまでだが、流れがこない、風が吹かないという感じだった。

ところが、今回は違った。ようやく風が吹いてきた。チャンス到来である。県大会に出場できる好機が巡ってきた。団体戦で県大会に出場できる枠は4つである。昨年度からクラブチームが大会に参加できるようになった。県北地区には3つのクラブチームがある。さすがに、どのチームも強い。よほど波乱がない限りは、4つのうち3つは決まりである。残りの1つを学校として出ているチームが争うことになる。

とはいっても、そう簡単なことではないのはわかっている。そのことは、自分のチームの力と指導者としての過去の経験から身に染みている。それでも、チャンスであることに変わりはない。そういうあるならば、目指すしかない。いや、目指すべきである。

自分が指導しているチームは、9月になってから変わってきた。だが、まだまだ不安定である。練習ではよくなってきたとはいえ、試合では、やってみないとわからない。技術的な部分が足りすぎる。

では、どうするか。もている力を最大限に引き出すしかない。それは、指導者からの言葉にかかっている。それを、いつ、どのように伝えるか、そのタイミングも重要である。試合の前の晩は、いろいろ考えてしまい、眠れなかった。珍しいことである。

試合が始まった。最初の試合に勝つか負けるかで、県大会への道が開くか閉ざされるかが決まる。試合前には、選手たちを前にして話をした。みんないい目をしている。こちらとしては、勝ったほうがいいのだが、それよりも、いい試合をしてくれれば、それでよいと考えている。

よく声を出し、強気で相手に向かっていった。見事な試合だった。見ていた校長先生が、「アドレナリンが出ている」とおっしゃっていた。そういう試合だった。相手校とは、8月にも試合をしていた。さほどの抵抗もできずに負けていた。伸びでいえば、こちらのほうが伸びていた。

この大事な一戦に勝つことができたおかげで、県大会が近づいてきた。だが、こちらが思い描くように進まないものである。勝てるなどと思ってしまうと、思わぬ落とし穴が待っている。試合はリーグ戦である。何が起こるかわからない。

(次号につづく)